

on Web

WEBセミナー開催報告

2020.10.12~12.9

学術・出版委員会委員長 山中英治

学術集会と教育セミナーが中止になりましたので、WEBセミナーを開催しました。日本クリニカルパス学会は例年教育セミナーを開催していますので、教育セミナー全部と学術集会プログラムの一部をWEB配信することにしました。

「教育セミナー基礎編」「教育セミナー応用編」「学術セミナー」「学術集会プログラム」の4本立てにし、約570名にご参加いただきました。

教育セミナーはパスの基本を勉強するのに最適ということで、パスを現場で作成運用することの多い看護師の方々の受講が毎年多く、WEBでもたくさんの視聴がありました。

学術セミナーは学会発表・論文作成のコツ、EBM、 電子カルテというテーマであったこともあり医師に好評 だったようです。

学術集会プログラムについては、ぜひ今年に聴いてもらいたいup to dateの演題を選びましたので、最新の情報が得られたかと思います。

WEBならいつでもどこでも繰り返し視聴できるとい

うメリットがあります。遠方の方にとっては旅費も時間も節約できますので、他の学会でも教育セミナーは感染が終息してもWEB開催形式は引き続き採用されるかと思います。

しかし学会発表については、やはり会場が良いです。 コンサート、スポーツ、演劇なども、テレビ中継や録画 配信で観るのと現場でライブで観るのでは、感動が格段 に違います。ましてや発表デビューの新人にとっては、 観客入りでお披露目することは、緊張しますが初舞台の 喜びを体感できます。

もちろん、一番違うのは懇親会です。パス学会は専門外の診療科や異なる職種と交流できる究極のチーム医療の学会です。活発なディスカッションの後で、打ち解けてお近づきになれる懇親会ができないのは寂しいです。「密を避ける」「触れあい禁止」とは、なんと無粋な嫉妬ウイルスなのでしょう。

忘年会、新年会も宴会はことごとく中止になりました。 近隣の医師会はICTに精通した若手理事がリモート忘年 会を企画されました。参加者の自宅に同じ弁当を宅配し、 酒類は自宅に持ち込み?可です。幹事の司会で背景画面 もいろいろ切り替えて、グループ分けして時間ごとにメン バーをシャッフルし、ビンゴゲームなどもするとか、いわ ゆる ZOOM 飲み会のグレードをはるかに超えています。

そこまでして宴会をするという情熱に感服いたしました。感染は早く終わってほしいですが、そのうちロボットがお酌をしてくれる企画もあるかもしれません。

▶ WEBセミナー開催報告

2020年度 日本クリニカルパス学会優秀英語論文賞 (JSCP Best Paper Award) を受賞して オンライン形式による公開パス大会を開催して

web セミナー 2020開催内容 【講演内容・配信期間】

①web教育セミナー基礎編2020(4講演)

10月12日(月)~11月9日(月) ご視聴人数:約409名

- 1. クリニカルパス医療の本質と意義 岡本 泰岳(トヨタ記念病院)
- 2. アウトカム志向パスの作成の基本 中 麻里子(大阪市立大学医学部附属病院)
- 3. アウトカム志向パスの使用の基本と看護記録 森崎 真美(済生会熊本病院)
- 4. バリアンス分析・アウトカム評価の具体的な実践例 勝尾 信一(福井総合病院)
- ②web教育セミナー応用編2020(2講演)

10月12日(月)~11月9日(月) ご視聴人数:約345名

- 1. パス大会の意義と方法 今田 光一(若草第一病院)
- 2. 院内クリニカルパス教育のノウハウ 勝尾 信一(福井総合病院)
- ③web学術セミナー2020(3講演)

11月10日(火)~12月9日(水) ご視聴人数:約323名

- 1. 学会発表と論文作成の基本とノウハウ 小林 美亜(静岡大学創造科学技術大学院)
- 2. パスと科学的根拠に基づく薬剤投与 外山 聡(新潟大学医歯学総合病院)
- 3. パスを活用した適正な診療記録 -より良い電子カルテを目指して-瀬戸 僚馬(東京医療保健大学)
- ④web学術集会プログラム2020(3講演)

11月10日(火)~12月9日(水) ご視聴人数:約315名

- 1. クリニカルパスを進化させる医療プロセス学のすすめ 副島 秀久(済生会支部熊本県済生会)
- 2. 電子クリニカルパスにおける適正な代行入力について 今田 光一(若草第一病院)
- 3. がん診療地域連携クリニカルパスの現況と課題点 東山 聖彦(市立東大阪医療センター)
- 4. 優秀英語論文賞受賞報告2020 吉田 一平(春江病院)

on Web

2020年度 日本クリニカルパス 学会優秀英語論文賞(JSCP Best Paper Award)を受賞して

医療法人 博俊会 春江病院 吉田一平

このたび、The effect on subjective quality of life of occupational therapy based on adjusting the challenge-skill balance: a randomized controlled trial(心理学(ポジティブ心理学:フロー理論)を基に考案したリハビリテーションプロセス/プロトコルの効果)という論文が、2020年度日本クリニカ



吉田一平 先生

ルパス学会優秀英語論文賞という大変名誉ある賞を頂戴 し、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。本研究では 主にリハビリテーション(作業療法)分野において、ポジ ティブ心理学の理論であるフロー理論(フローモデル)を 応用したプロセスを取り入れたことが特徴となります。 フローモデルは、活動や目標に対する挑戦度(難しさ)と 当人の能力のバランスによって示され、バランスが崩れ ている場合は、不安や退屈といったネガティブな心理状 態となり、バランスが保たれている場合はフローと呼ば れる没入体験を伴うポジティブな心理状態に至るとされ ています。自身の先行研究にて、理学療法士が患者が取 り組む目標や課題に対する捉え方をフローモデルで確認 したところ、理学療法士と患者の間にギャップが生じて いることが多いことが明らかになりました。そこでこの たび、フローモデルを用いて両者の認識の相違を「見え る化」し、よりバランスが保たれるような調整を図るプ ロセスをリハビリテーションに組み込みました。また、 視覚的に認識の相違を「見える化」すること、複数の理学 療法士において統一したプロセスを実行しやすくするた めに、タブレットで稼働するアプリケーションシステム を開発し、運用しました。このような介入を回復期リハ

ビリテーション病棟の患者を対象としてランダム化比較試験にて検証し、一般線形混合モデルによる分析の結果、本介入群において主観的QOL(生きがい感)に有意差を認めました。クリニカルパスの運用にあたっては様々なバリアンスが存在しますが、活動や目標に対する患者と医療スタッフ側の認識の相違を把握し、より患者に適した(フローモデルでいう挑戦と能力のバランスが保たれた)プランや目標を設定するプロセスや視点を取り入れるという本研究の知見が、クリニカルパスのさらなる発展に寄与することになれば幸いです。今後もクリニカルパスならびに本学会に貢献できるような取り組み、研究を継続していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

【2020年度日本クリニカルパス学会優秀英語論文賞】

The effect on subjective quality of life of occupational therapy based on adjusting the challenge-skill balance: a randomized controlled trial (Clinical rehabilitation 33 (11):1732-1746, 2019) 春江病院 吉田 一平

in 岡山

オンライン形式による 公開パス大会を開催して

2020.9.17

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター 岡山市立市民病院 入退院管理支援センター 佐賀亮介

2020年9月17日(木)、第5回岡山市立市民病院公開クリニカルパス大会を開催しました。このたび、YouTubeを活用したオンライン形式で開催した本大会ですが、日本全国から計180件以上のお申し込みをいただきました。施設単位で申し込まれている事例が多く、各施設で複数人が集合して視聴していた事例もございますので、実質の視聴人数は400名を優に超えたものと考えられます。コロナ禍で大変な状況のなか、多くの皆様にご参加いただきましたこと、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

本会では、当院入退院管理支援センター・時間センター 長(パス開発支援担当)から「当院におけるクリニカルパ



写真1 今田光一先生講演時の実際の配信画面



写真2 配信会場の準備場面

スの取り組み」について発表した後、若草第一病院の今田光一先生にご登壇いただき、「現場スタッフを楽にして医療ケアを改善するクリニカルパス運用の秘訣」と題したご講演をいただきました。今田光一先生のご講演では、クリニカルパスの本質などについて体系的に分かりやすくご説明いただき、当日傍で見ていた当院スタッフにとっても大きな学びの機会となりました(写真1)。

さて、例年当院では公開クリニカルパス大会を2回開催しているのですが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、開催を自粛していました。国内におけるクリニカルパス関連の学会や研修会が軒並み中止になっているなか、「このような状況だからこそ、できることをやってみよう!」という意見が広がり、今回の企画立案につながりました。当時、オンライン配信のノウハウを持ち合わせていないなかで、「とりあえずオンラインで!」といった感じの、言わば"勢い"で推し進めた企画であり、病院スタッフが一から企画調整し準備を進めた大会となりました(写真2)。

▶ オンライン形式による公開パス大会を開催して

第128回クリニカルパス大会を開催して

第7回はちのへ骨粗鬆症連携の会を開催して一大腿骨頚部骨折における地域連携パスをテーマに一

なお、配信終了後には多方面から想像以上の反響をいただきました。開催後に実施したアンケートでも「大変な状況のなか、このような研修の機会を設けてくれて有難かった。」などのご意見が多く寄せられ、当院スタッフにとっても大きな励みとなっております。

このたびの公開クリニカルパス大会を終え、"自院の取り組みを発信していくことの大切さ"を改めて実感することができました。今後も当院はクリニカルパスの推進に積極的に取り組み、また、その取り組みを院外に発信していく所存です。

一方、公開クリニカルパス大会の醍醐味は他医療機関の皆様と顔を合わせ、意見交換を行い、親交を深めることにあると考えております。その点で、やはり従来の集合型に勝るものはないと感じました。よって、今の感染拡大状況が収束した折には従来どおりの集合型で開催しますので、開催後の懇親会(飲み会)もセットでご参加いただきたく存じます。皆様にお会いできる日を、当院スタッフ一同楽しみにしております。

以上末筆ではございますが、今後とも日本クリニカルパス学会会員の皆様の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。



第128回クリニカルパス大会を 開催して

2020.11.24

済生会熊本病院 中熊英貴

2020年11月24日(火)に第128回クリニカルパス大会を開催しました。コロナ禍のため、現地とオンラインのハイブリッドでの開催としました。ハイブリッドでの開催は初めてのことだったため、「どのソフトで開催するのか」「オンラインのみで開催するのか、現地とのハイブリッドでの開催とするのか」など、準備に時間を要しました。当院が保有するMicrosoft社 Teams での開催と決まり、Microsoft社からも協力を得ることができ、当院医療情報部のメンバーを中心に進めました。また、パス大会の内容については、現場スタッフとの密なミーティングも制限されることから、クリニカルパス分析専門部会**1





(以下、パス分析部会)を中心に、「データからどのような提案が現場に出来るのか」をテーマに、コロナ禍でもあり、診療科を限定しない"発熱"にスポットを当て、分析を進めました。

最初にクリニカルパス推進委員会の吉田副委員長か ら、ePathプロジェクト*2で対象とした8パス*3の背景、 体温の可視化を示し、そのなかで最もバリアンス発生率 が高い大腸切除術パスに絞り込んだ流れを説明しまし た。さらに、発熱バリアンスの有無と入院日数の延長や 再入院、合併症から発熱性合併症(A群)、その他合併症 (B群)、標準経過(C群)に分けて、詳細分析を行い、適 正値は妥当だったこと、経過中の発熱バリアンスがなけ れば標準経過で退院できる可能性が高いことなどを説明 しました。さらに、パス分析部会の髙志部会長から、合 併症群(A群とB群)と標準経過(C群)で何か違うのか、 詳細分析を行い、食事のバリアンスが関連すること、発 熱以外の疼痛や創部の状態、ドレーン性状など多面的に アセスメントする必要があること、などを説明しました。 今後の展開として、対象期間を拡大し、バリアンスや患 者背景、タスクの使用などの相関分析などを行い、エビ



デンス創出を目指すことを宣言しました。

分析結果を受けて、担当病棟の看護師長や管理栄養士の視点で、また、日本クリニカルパス学会の副島理事長からも意見、感想があり、データと現場感覚とのズレにあまり差がなかった、と及第点の評価を得ました。最後に、パス分析部会の小妻副部会長から、データを活用した分析の必要性、データサイエンスの重要性、解析手法の紹介とその結果を説明し、閉会しました。

ご協力いただきましたMicrosoft社に心から感謝申し上げます。また、外部からオンラインで100名以上のご参加をいただき、ありがとうございました。

- ※1 クリニカルパス推進委員会の下部組織、分析やパス大会の企画を主体的に扱う組織
- ※2 AMED研究開発事業「クリニカルパス標準データモデルの開発および利活用」(代表:副島秀久、 H30~R2)
- ※3 大腸切除術パス、内視鏡的胃粘膜下層剥離術 (ESD)パス、鏡視下肺葉切除・区域切除術(VATS) パス、カテーテルアブレーション(RFCA)パス、経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-Bt)パス、人工股関節置換術(THA)パス、ロボット支援前立腺全摘術(RARP)パス、経皮的冠動脈形成術(PCI)パス

in 青森

第7回はちのへ骨粗鬆症連携の会を 開催して一大腿骨頚部骨折における 地域連携パスをテーマに一

2020.12.3

八戸市立市民病院整形外科 沼沢拓也

2020年は全世界でコロナウイルスが蔓延し、本邦においても感染拡大を防ぐために多くの会場開催の学会・研究会が自粛されてきたと思います。青森県においてもWEB会議が増えておりましたが、感染予防を徹底して会場とWEBのハイブリッド方式で2020年12月3日に第7回はちのへ骨粗鬆症連携の会を開催しましたので報告させていただきます。



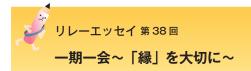
はちのへ骨粗鬆症連携の会は毎年12月に開催してお りますが、今年のテーマは「大腿骨頚部骨折における地 域連携パス」としてクリニカルパスを中心とした講演会 を企画しました。テーマの選択にあたっては、昨年の熊 本での日本クリニカルパス学会学術集会への参加がきっ かけとなりました。当院ではすべての紙パスが電子パス へ移行し、電子カルテによる院内のパス治療はスムーズ に行われていましたが、退院後の地域病院との連携がう まくできていないことが問題となっておりました。学会 に参加して地域連携パスに関する講演、演題で学ぶとこ ろが多かったのですが、そのなかで同じ県内で青森市を 中心とした青森エリア地域連携パスが高く評価されてい ることを知りました。学会会期中の夜には毎年のように 青森県人会が開かれており、招かれて参加したところパ スに熱意を持った青森県の同胞が多くおり、色々と地域 連携について教えてもらうことができました(写真)。会 の中心メンバーで学会の評議員である青森県立中央病院 整形外科の伊藤淳二先生から地域連携パスの運用方法な どをお聞きし、当地域の地域連携パスの普及のために講 演をお願いしました。

話は戻りますが、第7回はちのへ骨粗鬆症連携の会には約30名の会場参加者と約20名のWEB参加者が集いました。青森県立中央病院リハビリテーション科の畠山涼子先生から「リハビリ部門における青森エリア大腿骨頚部骨折地域連携パスのこれまでとこれから」について講演いただき、さらに伊藤先生から「新型コロナウイルス感染流行下における骨粗鬆症治療-大腿骨頚部骨折地域連携パスデータをふまえて-」について講演をいただきました。講師の先生方の講演では、地域連携パスの推進にはPDCAサイクルに従ったパス治療の進め方や、

▶ 第7回はちのへ骨粗鬆症連携の会を開催して一大腿骨頚部骨折における地域連携パスをテーマにー リレーエッセイ 第38回 事務局より

定期的な多職種の医療者同士による議論や話し合いの機会が重要であることが強調されていたと思います。会場の参加者からも地域連携パスを進めるうえでの多くの質問があり、非常に有意義な会であったと思います。

コロナ禍で地域連携を進めていくことは難しいと思いますが、会で得た知識を活用できるように、WEB会議など利用した地域連携の話し合いの進め方も考えていく必要があると思っています。もしかすると、これを機会にネットワークを利用したペーパーレスの地域連携パスが発展できる可能性があるかもしれないと少し期待しております。



医療法人 蘇西厚生会 松波総合病院 看護師 今尾裕子

毎回楽しく読ませていただいているリレーエッセイを、私が書くことになり大変恐縮しております。岐阜市民病院の診療情報管理士山本直生さんとはクリニカルパス指導者養成コースからのご縁ですが、このお話をいただいた当時、2020年の学術集会を当院が主催することとなっていましたので、これも「タイミング」「縁」と思い引き受けたものの今でも、私でよいのか……と悩みながら書いている次第です。

クリニカルパスとの出会いは、10年以上も前のことです。外来から病棟へ異動となり、その当時のパス委員の方が退職されるので、後任となりました。ある日、検査入院パス(当時は紙パスでした)を先輩に教わったとおりに上から順に施行しましたが、検査後の覚醒が悪く重症部屋への帰室が必要となった症例があり、頼りのパスには記載自体なく、「上から順に??どこに記載があるの?新人さんでもベテランさんでも問わず、同じ看護提供・標準化できるのがパスでしょ~」と戸惑いました。こういった経験から、医師等と相談し、パスにスケール表を参考にし、検査後の帰室先を記載する等の工夫を重ねました。パスを運用していくと、さらに改定すべき点が見つかることと、診療報酬改定に伴ってパス内容の変

更・追加が必要となることがあり、随時、パスを見直す ことにしています。

また、学術集会にも毎年参加し、学会の皆さんの他院での活動を知り、よりパスに関心を持ちました。院内パス委員会での活動を進め、遂には自己の知識の確認のために資格認定制度に申請し、なんとか合格もできました。パス委員の活動として、院内勉強会を主催するなかで、人に伝えること、理解してもらうことの大変さを痛感した経験から、指導者養成コースへ参加しましたが、そこでの研修を通じて自己の再認識ができ、またそれ以上に、何より参加する皆さんの熱意からたくさんのパワーをもらいました。研修で知り合った方とは今でも「縁」がありつながっていますし、委員としての悩み、パス作成の悩みなども相談しています。

2020年、残念ながら岐阜での学術集会は中止となりましたが、最近の活動として11月に開催した院内パス大会で、「急性期内科病棟でのパス認定士としての活動」と題して、特に、消化器内科では内視鏡検査「ESD、EMR、EVL」パス、血液内科では化学療法「R-CHOP、ビダーザ」パス、他にも、医師・スタッフと連携し「透析導入」「睡眠時無呼吸症候群検査」「副腎静脈サンプリング検査」パス、最近では「軽症・重症COVID-19」パスを作成したこと、今後の私の活動目標について発表しました。

今後も、「縁」を大切にし、多職種のスタッフ皆が同じ 目線で医療提供ができるよう、自己が架け橋となり、患 者が安心して入院できるようなパス作りを目標としてい きたいと考えています。

次回は実父の入院先だった「一宮西病院医師の松原寛 和先生」にバトンタッチします。よろしくお願いします。



今尾裕子 さん



事務局より



第21回

日本クリニカルパス学会学術集会

会 期:2021年11月26日(金)~27日(土)

会場: 山形県総合文化芸術館・山形テルサ・ 山形国際ホテル・ホテルメトロポリタン山形

会 長:石井 政次

(社会福祉法人恩賜財団 済生会山形済生病院 院長)

テーマ: 時代に即するみんなのクリニカルパス プログラム:

理事長講演、会長講演、招待講演、特別講演、シンポジウム、パネルディスカッション、教育セミナー、 論文の書き方セミナー、一般演題(口演・ポスター) など

参加登録募集期間:

2021年7月1日(木)~9月30日(木)(予定) 演題募集期間:

2021年4月27日(火)~6月23日(水)(予定)

第21回学術集会公式ホームページ:

https://site2.convention.co.jp/jscp21/contents/registration.html



2021年度

資格認定制度

「臨床現場における具体的なクリニカルパスの導入・運用および改善を支援する」という目的において、クリニカルパスの質を維持・向上することおよびその人材を育成することが必要と考え、パス認定士・パス指導者・パス上級指導者の3段階制の資格認定制度を設けております。詳細は下記URLより資格認定制度概要をご覧ください。

なお、2021年度は第1回の更新年度となります。該当する方は申請の準備をお願い致します。

http://www.jscp.gr.jp/nintei.html

学術研究助成

研究によって臨床現場におけるクリニカルパスの導入・運用および改善の支援に寄与することを目的として、学術研究助成を実施しております。多数の申請をお待ちしております。

【応募資格】主任研究者は日本クリニカルパス学会個人会員(申請時に個人会員であれば可)とする 【応募期間】2021年4月1日(木)~5月31日(月)



優秀英語論文賞(JSCP Best Paper Award)

「学術的な研究を推進することを目的に、国際的に認められる研究の英文での発表を奨励する一環として、優秀な 英語論文を表彰する」意図で、『優秀英語論文賞』を制定しております。皆様の応募をお待ちしております。

【応募資格】日本クリニカルパス学会個人会員(申請時に個人会員であれば可)

【応募期間】2021年4月1日(木)~5月31日(月)

クリニカルパス教育セミナー 基礎編

『楽しく学ぶクリニカルパスの基礎 〜知ろう!作ろう!使いこなそう!〜 2021』

パスの導入教育、初期教育の実施に悩んでいる病院の皆様はもちろん、すでに自施設で実施できている病院の皆様にも役に立つ内容となっています。多くの仲間と誘いあってご参加ください。現地開催は東京のみとなりますが、webセミナーも予定しております。

【東京会場】2021年7月10日(土) 13:00~17:00 日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル)

皆様にお願い

医師の働き方改革/医療のタスクシェアに関する議論と政策検討が急ピッチで進められており、第21回学術集会でも「クリニカルパス業務と医療のタスクシェア/シフト」と題したシンポジウムが組まれています。パスを運用している病院の方々(紙パス、電子パスを問わない)にお願いです。パスに関わる業務の職種分担に関する現状を把握するためアンケートを取りたいと思います。以下のアドレスにアクセスして皆さんの病院の現状を教えてください。郵送の手間などはなく選択肢をクリックするだけです。全国のパス仲間と課題や解決法を共有するため、ご多忙のところ大変恐縮ですが、6月末までにご回答のご協力を何卒お願い申し上げます。

第21回日本クリニカルパス学会学術集会 会長 石井政次 担当プログラム委員 斉藤利香子 今田光一

バス業務の役割分担に関するアンケート https://forms.gle/75y6a3mUVFXAKdzF6 右のQRコードからもアクセスできます



日本クリニカルパス学会 会員募集中!

日本クリニカルパス学会では随時会員を募集しております。お申込みの詳細については下記 URL より学会ホームページをご覧ください。

〈会員の特典〉

- ・本会発行の学会誌、ニュースレター等の定期刊行物を受け取ることができる。
- ・学術集会で演題発表ができる。
- ・学会主催のセミナーなどに会員価格で参加ができる。
- ・認定資格を取得できる(個人会員に限る)。
- ・本会専用のメーリングリストに登録が可能。わからないことはメーリングリストで質問できる。

入会金:個人会員 医師 10,000円、医師以外 7,000円

法人会員 40,000円

年会費:個人会員 医師 10,000円、医師以外 7,000円

法人会員 40.000円

http://www.jscp.gr.jp/contact.html



発 行

--般社団法人 日本クリニカルパス学会

〒 151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-8-10 外苑マンション 605 TEL.03-3354-2005 FAX.03-3354-2017 ホームページ: http://www.jscp.gr.jp/